

長野県千曲市

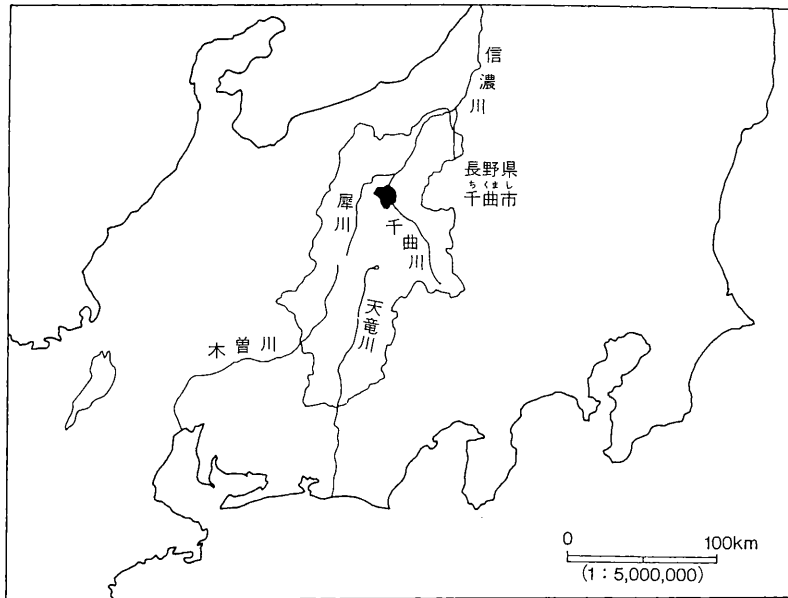
栗佐遺跡群

五輪堂遺跡 8

—平成 18 年度 埴科教育会館改築工事に伴う発掘調査報告書—

2007

千曲市教育委員会



千曲市の位置

例言

目次

- 1 本書は、平成 18 年度に実施した埴科教育会館改築工事に伴う、粟佐遺跡群五輪堂遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書の執筆・編集は寺島が行った。
- 3 調査は、千曲市教育委員会が主体となり、文化課文化財係が担当した。

千曲市教育委員会事務局

教育長	安西 嗣宜
教育部長	塚田 保隆
文化課長	金井 幸一
文化財係長	矢島 宏雄
文化財係	小野 紀男
	寺島 孝典

- 4 本文中の遺物実測図の縮尺は原則的に、下記のとおりである。

土器実測図 1 : 4

石製品実測図 1 : 2

- 5 本文中の遺物の実測図についての表現は下記のとおりである

土師器 断面 = 白抜き

須恵器 断面 = 塗り潰し

- 6 本文中の図版の座標地及び方位は、平面直角座標系第Ⅷ系で示している。

- 7 調査によって出土した遺物のほか、実測図・写真等すべての資料は、千曲市教育委員会で保管している。

なお、出土遺物には調査記号 (GRH) を付し、保管している。

例言・目次

第 1 章 調査の概要	1
調査日誌	2
基本層序	2
第 2 章 遺跡の環境	3
第 3 章 遺構と遺物	4
第 4 章 まとめ	6

写真図版

報告書抄録

第1章 調査の概要

千曲市大字屋代及び大字小島地籍に所在する粟佐遺跡群のほぼ中央に位置する五輪堂遺跡は、これまで数多くの発掘調査が実施されており、弥生時代から平安時代の集落遺跡であることが明らかとなっている。

平成16年7月26日、社団法人更埴教育会から老朽化した埴科教育会館の改築を計画しているとの連絡を受け、事前協議を実施。平成17年度に設計を行い、平成18年度施工予定ということで、今後の対応についての話し合いを行った。

平成17年6月1日、設計業者来庁。平成17年中に設計が終わり、平成18年春に現教育会館の取り壊しを行う予定のため、その後発掘調査を実施することとする。

平成18年3月13日、文化財保護法第93条に基づく届出が提出され、発掘調査が必要な旨回答。平成18年4月19日、事業者、設計業者、施工業者と発掘調査に係る保護協議を実施し、6月中に会館の引越しと取り壊しを完了させ、7月から調査を開始することとなり、平成18年6月22日、社団法人更埴教育会会長 大橋春武と千曲市長 宮坂博敏との間で発掘調査に係る委託契約を締結した。

発掘調査地は、北緯36度31分58秒、東経138度07分42秒、標高359m付近に位置する。

発掘調査は、平成18年7月3日から開始し、7月20日に現場におけるすべての作業を終了した。

整理調査は、平成18年11月1日から着手し、平成19年3月30日、当該事業に係るすべての調査を終了した。

- | | |
|----------|---|
| 1 調査遺跡名 | 粟佐遺跡群 五輪堂遺跡 (千曲市遺跡台帳No.28-1 調査記号GRH) |
| 2 所在地 | 千曲市大字屋代2111番地1 |
| 3 土地所有者 | (社)更埴教育会 会長 大橋春武 |
| 4 調査原因 | 埴科教育会館改築工事 |
| 5 事業委託者 | (社)更埴教育会 会長 大橋春武 |
| 6 事業受託者 | 千曲市長 宮坂博敏 |
| 7 調査の内容 | 発掘調査 調査面積 230㎡ |
| 8 調査期間 | 発掘調査 平成18年7月3日～平成18年7月20日
整理調査 平成18年11月1日～平成19年3月30日 |
| 9 調査費用 | 1,000,000円 (事業者全額負担) |
| 10 調査主体者 | 千曲市教育委員会 |
| 事務局 | 文化課文化財係 |
| 調査担当者 | 文化財係 寺島孝典 |
| 調査参加者 | 北澤寛・春原正心・高野貞子・長瀬忠重・中村栄・中村善夫・中村文恵
米沢須美子 |
| 11 種別・時期 | 集落跡 古墳時代 |
| 12 検出遺構 | 不明遺構1基 溝状遺構1本 河川跡1本 |
| 13 出土遺物 | 土器片 古墳時代～平安時代 コンテナ1箱 |

調査日誌

- 7月3日(月) バックホーによる表土掘削。
発掘機材・プレハブ搬入。
- 7月4日(火) 遺構検出作業開始。
- 7月6日(木) 1号溝状遺構掘り下げ。
不明遺構掘り下げ。
河川跡トレンチ掘削。
- 7月7日(金) 不明遺構掘り下げ。
河川跡(被覆砂層)掘り下げ。
- 7月11日(火) 不明遺構掘り下げ。
河川跡・1号溝状遺構写真撮影。
- 7月13日(木) 全体写真撮影。
- 7月14日(金) 測量杭設定。基準点測量。
平面図作成。
- 7月20日(木) 調査区西壁及び北壁にバックホーによる深堀トレンチ掘削。
断面図作成。
本日を持って、現場における作業をすべて終了する。
- 7月21日(金) 発掘機材・プレハブ撤収。



表土掘削

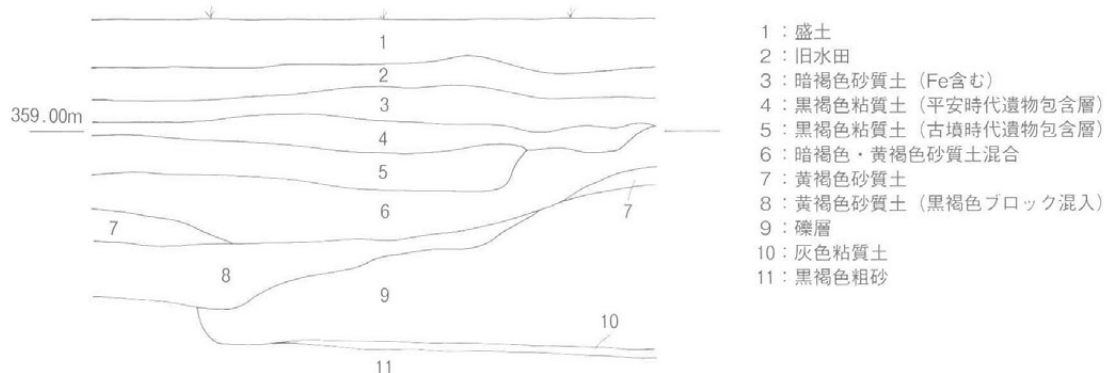


作業風景

基本層序

本遺跡の層序については、既に過去の調査においてほぼ一様の状況が見取れることから、ここでは北壁断面の堆積状況を示し基本層序とする。

第1図に示した土層断面において、第4層及び第5層が遺物包含層となり、第4層中に平安時代の遺物が、第5層中に古墳時代の遺物がそれぞれ混入する。いずれも黒褐色の砂質土であるが第5層のほうはややしまりが強い。第6層から第8層までは無遺物層となり、第8層は調査区東側一帯に検出された礫層(第9層)を被覆する黄褐色の砂質層となる。



第1図 調査区北壁土層断面図 (1:40)

第2章 遺跡の環境

粟佐遺跡群は、千曲川によって形成された自然堤防上に位置し、現千曲川河川敷付近から一重山山麓まで、東西約800m、南北約1200mを測る遺跡群で、弥生時代から連続と続く居住域が展開している。

この粟佐遺跡群のほぼ中央に位置している五輪堂遺跡は、屋代小学校、または屋代南高等学校の改築などにより度々発掘調査がされており、遺跡の性格が明らかになってきている。

ここでは、これまで実施された五輪堂遺跡の調査を抜粋し、遺跡の環境とする。

粟佐遺跡群五輪堂遺跡の発掘調査として最初に行われたのは、屋代小学校校舎改築によるもので昭和52年度（1977）に実施された第一次調査である。

調査面積は約600㎡で、古墳時代住居跡3棟、平安時代住居跡7棟のほか掘立柱建物跡、溝跡などが検出されている。特に4号住居とされた一辺約8.3mを測る比較的大型の古墳時代住居跡からは鉄製の鋤先が出土している。

その翌年には校舎改築による二次調査を実施、調査面積は2,320㎡を測り、61棟にも及ぶ住居跡のほか、掘立柱建物跡、溝跡、土坑墓など多くの遺構が検出されている。

昭和57年度（1982）には屋代南高等学校体育館建設に伴う発掘調査が実施され、住居跡33棟のほか、堂跡、火葬墓、方形周溝墓などが検出されている。

堂跡は、方形に区画された溝脇に石列が巡る遺構となる。南側には突出部があり社寺建築を想定させるが、時代の特定できる遺物の出土がないため時期はわからないものの、当該地の名「五輪堂」に由来する施設の可能性も考えられる。また、堂跡のすぐ南西で検出された2号火葬墓からは土師器坏や灰釉陶器の椀、長頸壺など完形の遺物が出土しており、土師器坏の表面には「豊□□」と書かれた墨書がある。

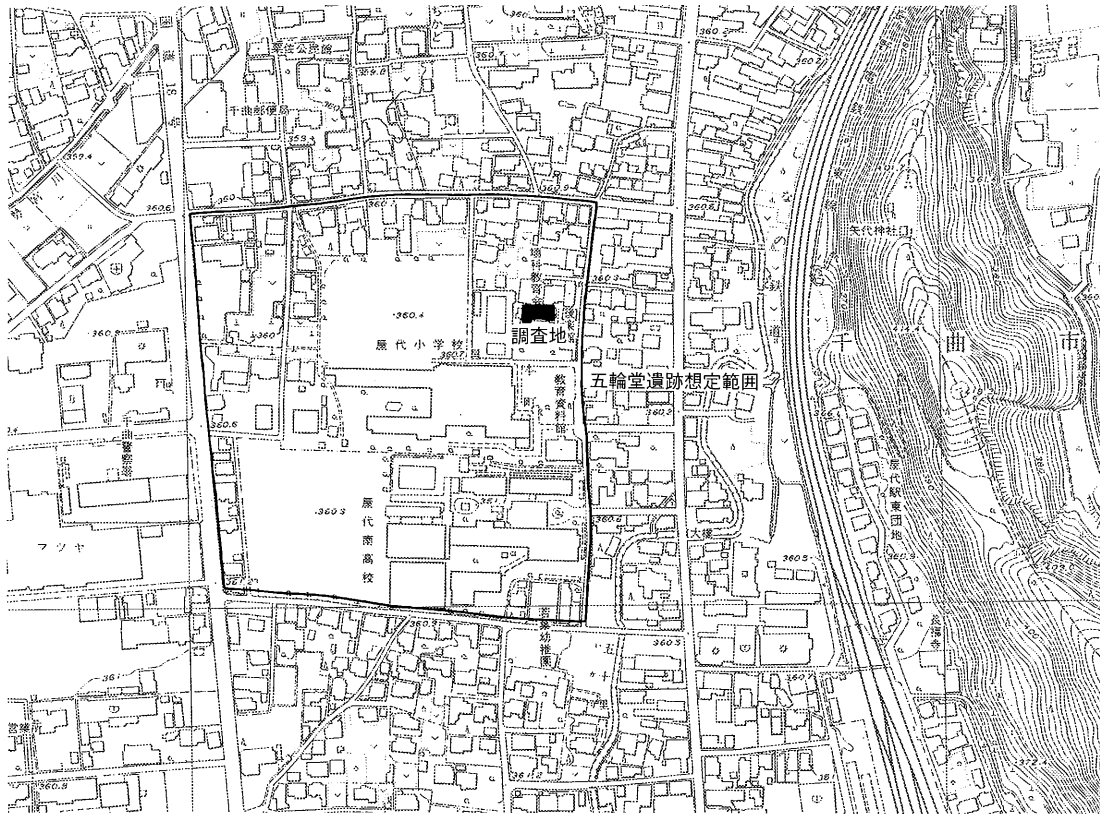
昭和60年度（1985）は屋代南高等学校校舎改築に伴うもので、約400㎡が調査されている。住居跡8棟、掘立柱建物跡3棟のほか、土坑、溝跡などの遺構が検出されている。

昭和61年度（1986）に実施された屋代南高等学校特別教室棟建設に伴う発掘調査では、明確な遺構は伴わないものの、土師器坏が10枚重なって出土しており、その表面に「豊村寺」と読める墨書が記されている。昭和57年度に行われた体育館建設の際の調査において出土した2号火葬墓の墨書土器と同様「豊」の字が用いられており、その関係や堂跡との関連性も非常に興味深い。

昭和63年度（1988）は屋代南高等学校内の倉庫・便所・渡り廊下建設に伴って発掘調査が実施された。倉庫部分の調査では、南北に幾筋もの溝跡が検出され、昭和53年度に行われた屋代小学校二次調査において検出されている平安時代と思われる溝跡と同一のものと考えられる。

平成2年度（1990）は、更埴警察署（現 千曲警察署）官舎建設に伴って発掘調査が実施され、僅かな調査面積であったが多くの遺構が検出された。

以上のように五輪堂遺跡は弥生時代から平安時代、中世に至るまでの複合遺跡であるとともに、これまでに調査された200棟に近い住居跡に代表されるよう、大規模な集落遺跡であったことが明らかとなってきている。また、火葬墓や堂跡など宗教関連施設やそれに関わる遺構の検出など、大変興味深い資料が蓄積されている遺跡でもある。



第2図 調査地位置図 (1 : 5,000)

第3章 遺構と遺物

不明遺構

調査区の西側一帯に検出された暗褐色砂質土を覆土とするもので、明確な掘り込みではなく深さも一定ではない。遺構というよりは、むしろ地形の落ち込みに堆積した遺物包含層（第1図第4層・第5層）とみられ、深いところでは遺構確認面から1m30cmを測る。

遺物も僅かであるが散在して出土し、古墳時代の遺物と平安時代の遺物が混在している。

出土遺物〔第4図1～11〕には壺（1）、小型丸底（2）、高坏（3・4）、器台（5）、坏（6）、土師器坏（7）、須恵器坏（8・9）、須恵器壺（10）のほか、石帯（11）がある。

溝状遺構

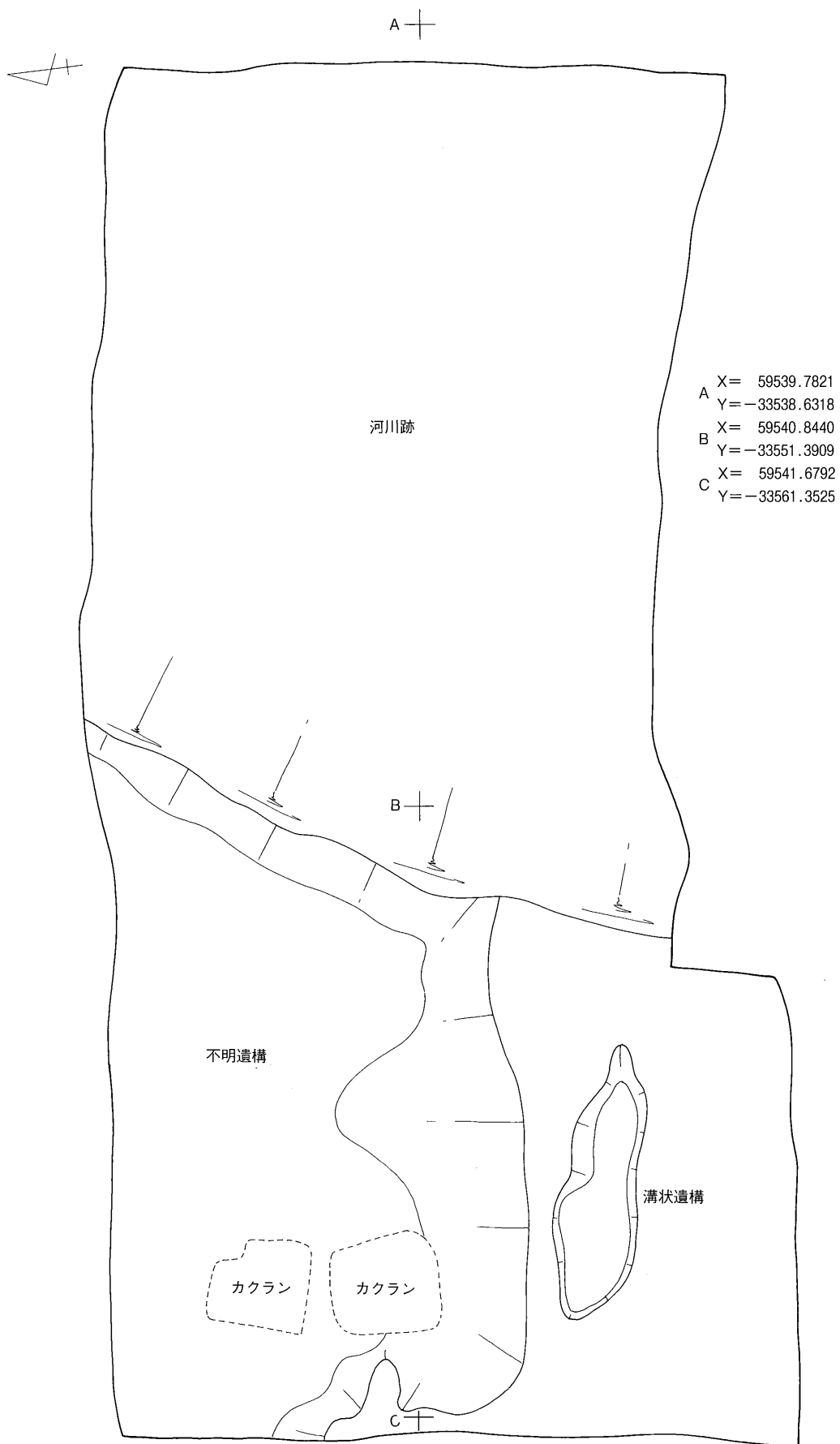
不明遺構の南側に検出された幅1mほどの不整形な溝状の遺構で、深さは10cm前後と非常に浅い。

遺物は底面を中心に出土しているが、時期の異なる遺物が出土しているため、不明遺構と同様に地形の落ち込みに堆積した遺物包含層の可能性が高い。

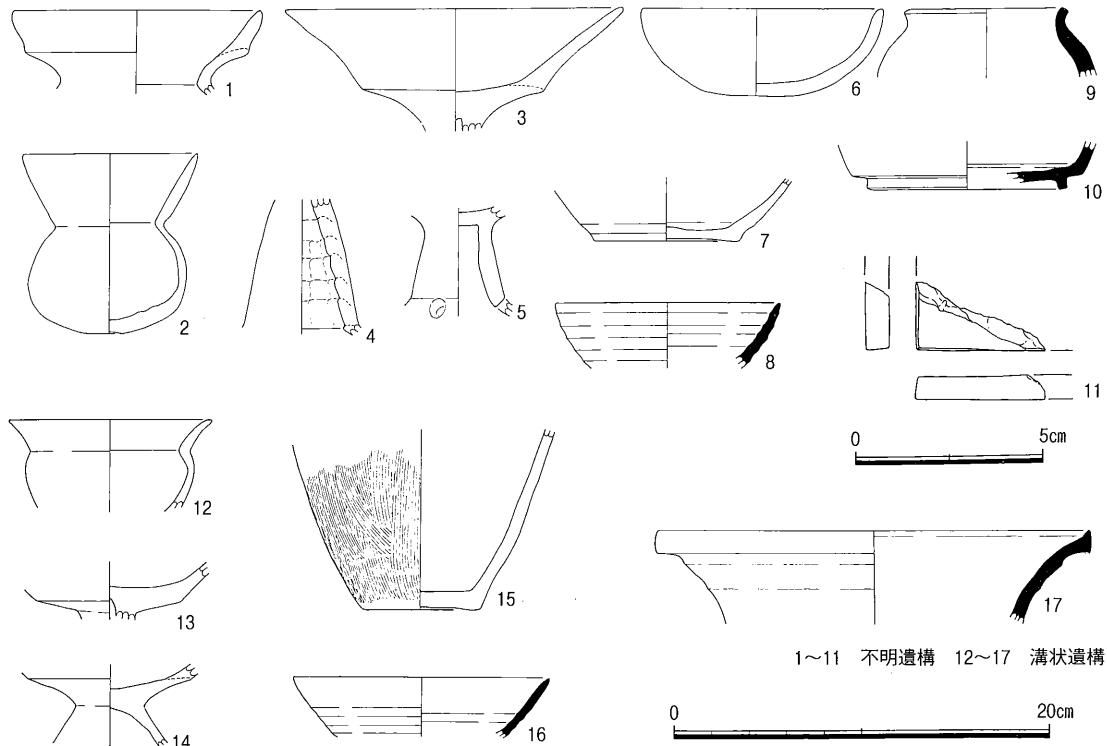
出土遺物〔第4図12～17〕には鉢（12）、高坏（13・14）、甕（15）、須恵器坏（16）、須恵器壺（17）がある。

河川跡

調査区の東半分を占めるもので、細かな砂（第1図第8層）が被覆する。砂を取り除くと拳大ほどの礫が堆積し、東に向かって傾斜していくため河川跡と判断した。遺物の出土は全くなかったが、古墳時代遺物包含層が砂層の上部に堆積しているため、古墳時代より古い河川であることは確実であろう。



第3図 全体図 (1:100)



第4図 出土遺物実測図（1：4 11のみ1：2）

1は小型の壺で、受口状口縁となる。2は口縁部を強いヨコナデで整形し、胴部は、内面はナデ、外面はヘラミガキによる。高坏は3が坏部、4が脚部となる。双方とも丁寧なヘラミガキが施される。5は器台の脚部で、下部が破損しているが孔が穿たれており、恐らく3箇所に配されているものと思われる。6は内外面共にヘラミガキされる。7は大型の坏底部と見られ、糸切りによる切断痕が残る。

11は石帯の破片である。石材は花崗岩と考えられ、丁寧に研磨されている。

12は内外面共に丁寧にヘラミガキされる。15はハケによる整形が行われる。

第4章 まとめ

五輪堂遺跡は、過去に多くの発掘調査が実施されており、弥生時代から平安時代にかけての大集落跡であることが判明している。しかしながら、今回の調査地点は多くの遺構遺物が出土した屋代小学校プール地点から10mと離れていないにもかかわらず、住居跡どころか明確な遺構すら検出できなかったのは残念でならない。ただ、広大な遺跡群として存在している栗佐遺跡群のなかでも、土地の状態やその後の地形変化などで居住域として適さなかった場所も必ずあるものである。

今回調査した地点がそういった場所である可能性の高いものとして考えるのであれば、五輪堂遺跡の東端を調査したことになり、遺跡の範囲をつかむことができた意義は大きいものといえる。加えて、調査区の半分を占める河川跡と思しき礫群の検出は、当該地の古環境を推察していくにおいて貴重な調査となったことは言うまでもない。

最後に、今回の調査にあたり準備段階から調査中に至るまで、ご尽力いただいた池田U建築設計事務所池田雄三所長、(株)石井工務所石井英嗣社長。また、様々な面でご協力を賜った社団法人更埴教育会の先生方に感謝申し上げます、まとめとします。



溝状遺構



河川跡検出作業



調査区西側全景
(南より)



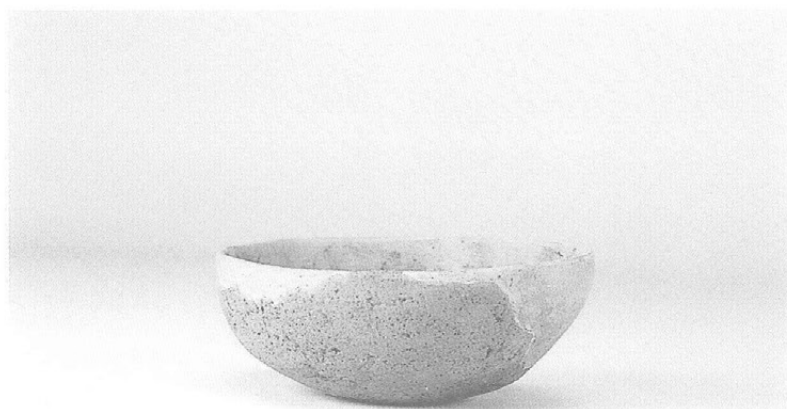
調査区東側全景
(南より)



2



3



6

報告書抄録

ふりがな	あわさいせきぐん ごりんどういせき はち							
書名	栗佐遺跡群 五輪堂遺跡 8							
副書名	平成18年度 埴科教育会館改築工事に伴う発掘調査報告書							
編著者名	寺島孝典							
編集機関	千曲市教育委員会 文化課 文化財係							
所在地	〒389-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地 TEL 026-275-0004							
発行年月日	2007年3月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こりんどういせき 五輪堂遺跡	ながのけんちくましおお 長野県千曲市大 あきやしろ ばんち 字屋代2111番地 1	20218	28-1	36 31 58	138 07 42	20060703 ~ 20060720	230㎡	埴科教育 会館改築
所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構		主な遺物		特記事項	
五輪堂遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	不明遺構 溝状遺構 河川跡		1基 1本 1本	古墳時代 土器 平安時代 土師器・ 須恵器 平安時代 石帯	五輪堂遺跡の東端 を確認	

栗佐遺跡群 五輪堂遺跡 8

発行日 平成19年3月30日
 発行 千曲市教育委員会
 〒398-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地
 電話 (026) 275-0004
 印刷 信毎書籍印刷株式会社
 〒381-0037 長野県長野市西和田1-30-3
 電話 (026) 243-2105

